

シンポジウム 1

「西日本豪雨災害の経験から求められる薬剤師の役割」

座長: 田中 守((一社)愛媛県病院薬剤師会 会長)

木本 国晴((一社)愛媛県病院薬剤師会 災害対策委員会)

シンポジスト: 木本 国晴(松山赤十字病院 薬剤部)

縄田 幸裕((一社)愛媛県薬剤師会・(株)アステイス)

竹内 信人(市立宇和島病院 薬局)

藤原 隆一郎((一社)愛媛県薬剤師会宇和島支部・あんず薬局)

下田 勝(愛媛県保健福祉部健康衛生局 薬務衛生課薬事係)

災害とは暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象などの原因により生じる被害とされている。近年、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、北海道地震など各地で大規模災害が発生しており、愛媛県においては平成 30 年 7 月に豪雨災害を経験した。また、今後 30 年以内には高い確率で南海トラフ地震が発生する可能性が示唆されている。大規模災害時において多くの傷病者や病気を抱える患者に対して医療従事者である薬剤師の果たすべき役割は大きい。災害時において調整員としてのマネジメントのみならず医薬品の準備、管理、医薬品適正使用に向けた医師への提案および助言、チーム医療を通じた医療の確保、避難所等における被災者支援、その他公衆衛生活動など多岐にわたることから日頃より災害に備えた対応、取り組みおよび連携などが求められる。

本シンポジウムでは、病院薬剤師、保険薬局薬剤師、卸および行政の立場から西日本豪雨災害の経験も踏まえて災害時における薬剤師の関わりやその取り組みについてご講演ならびに討論頂く予定としている。ご参加される先生方の一助となれば幸いである。